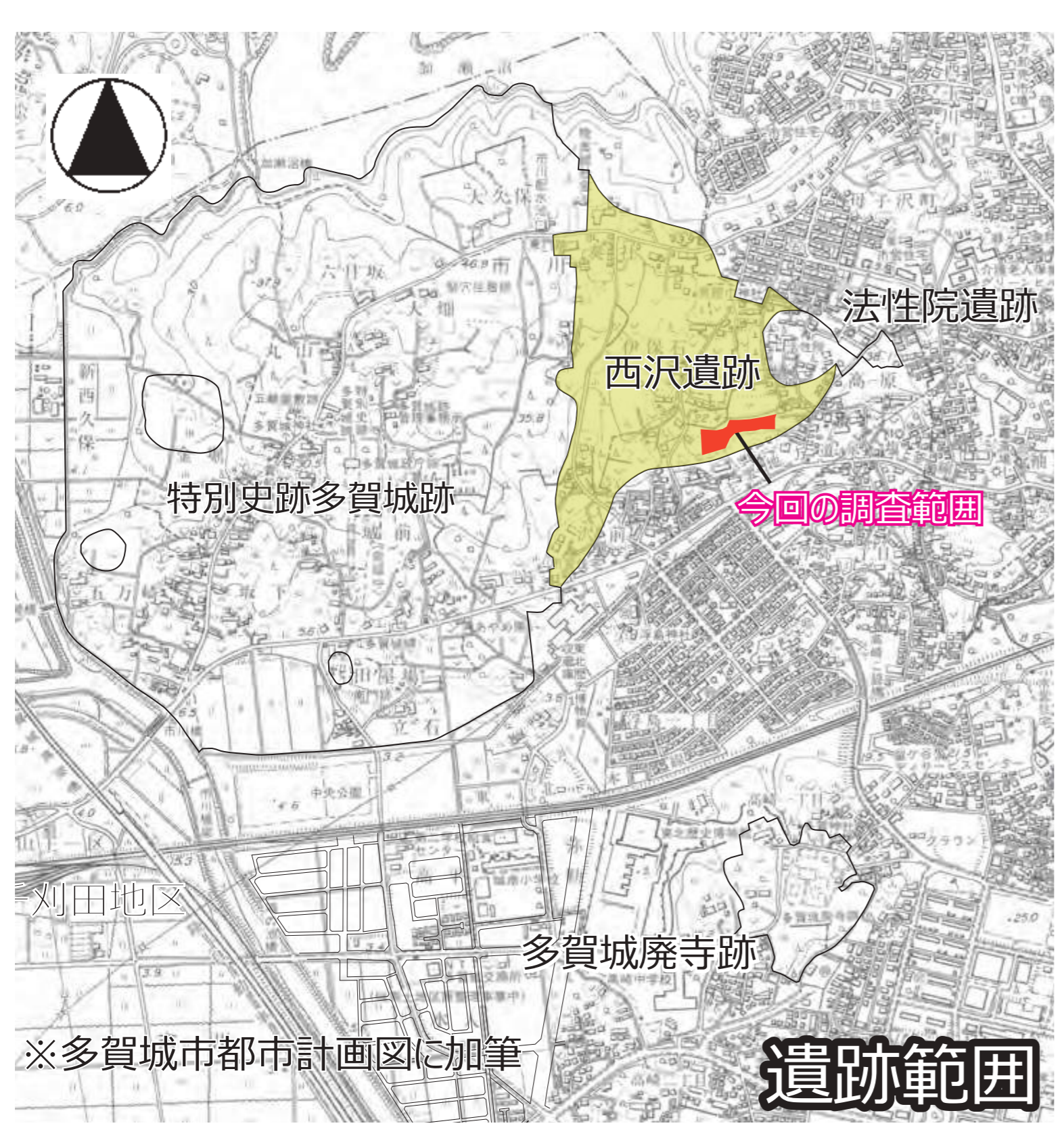


遺跡遠景（南西から）

多賀城跡を支えた古代遺跡

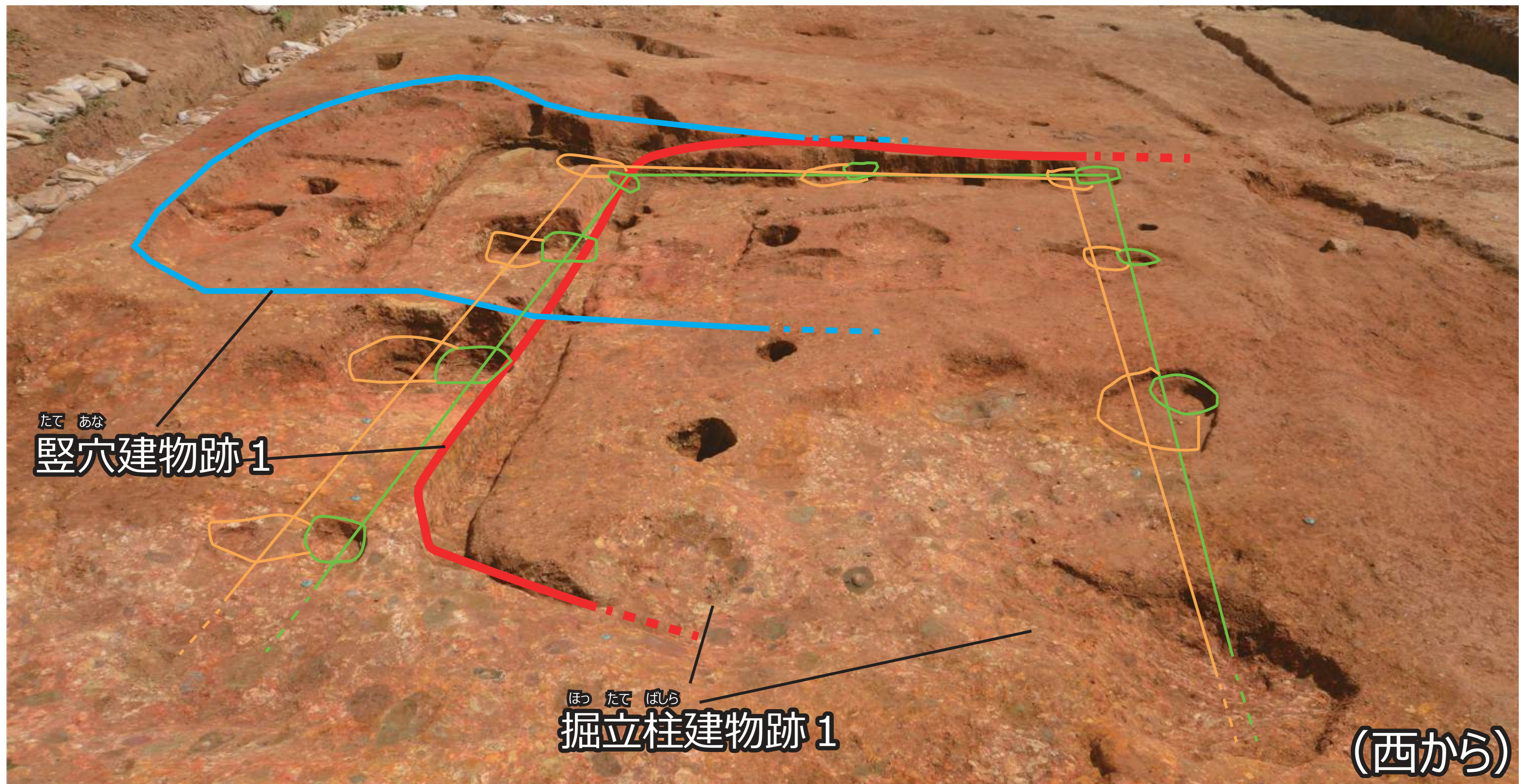
⑥西沢遺跡（多賀城市浮島）



多賀城跡の東隣にある低丘陵上に立地する遺跡です。これまで多賀城市教育委員会による発掘調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴建物跡や鍛冶工房跡が確認されています。灰釉・緑釉陶器、硯の発見や鍛冶工房跡の存在から、多賀城跡との関連が注目されています。

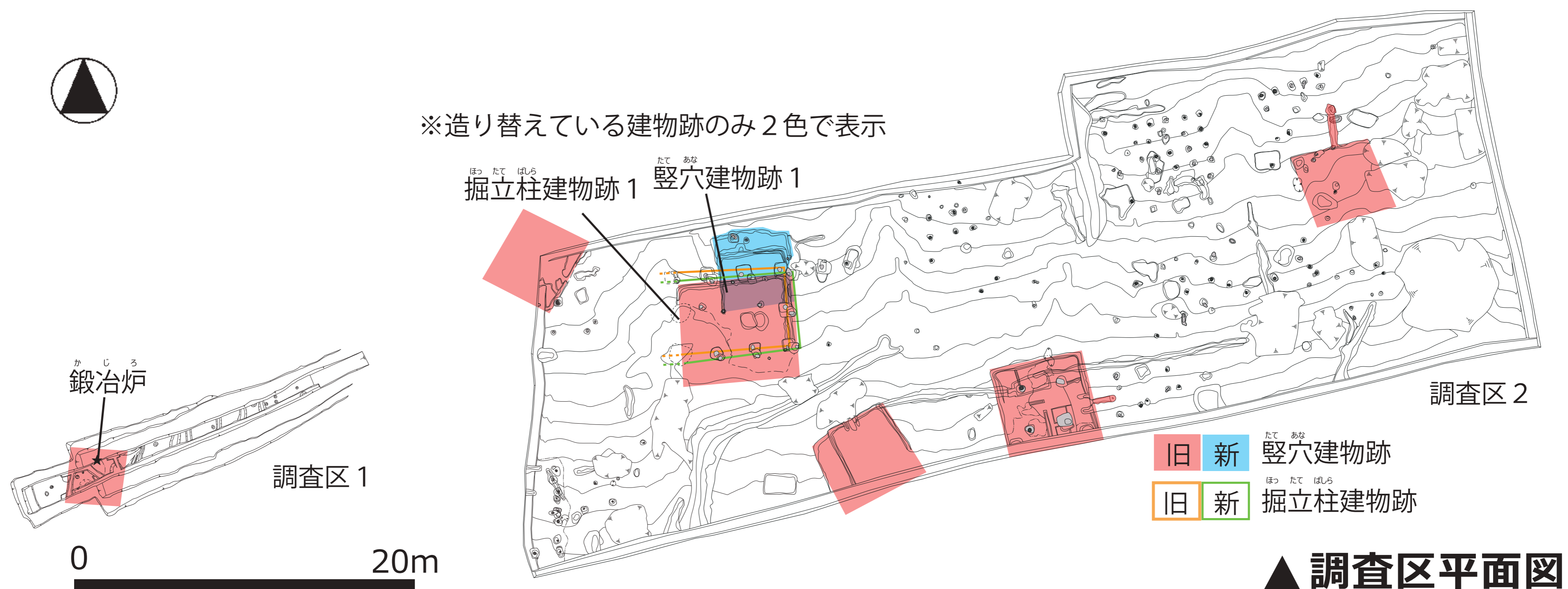
今回の調査でも、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、鍛冶炉などが確認され、同様の施設が広範囲に広がっていたことが分かってきました。

- 旧石器
- 縄文
- 弥生
- 古墳
- 飛鳥
- 奈良
- 平安
- 鎌倉
- 室町
- 安土桃山
- 江戸
- 明治



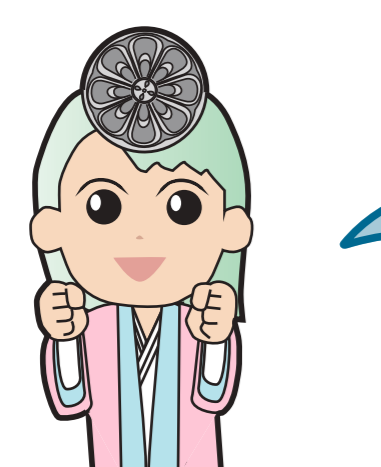
▲ 同じ場所で何度も建て替えられた建物

竪穴建物跡1は、一度造り替えられています。掘立柱建物跡1は、竪穴建物跡1が使われなくなった後に建てられており、この建物も造り替えが行われています。



▲ 調査区平面図

奈良時代から平安時代まで、建物の形を変えながら集落が維持されていたことが明らかになりました。調査区1で発見された鍛冶炉の周辺では、鍛冶滓（鍛冶の過程で生じる不純物の塊）や炭、焼けた土が見つっています。ここで鉄製品を作っていたと考えられます。



れんげもんちゃん



ちようさいんさん

どうして西沢遺跡は、多賀城跡との関連性が注目されているの？

当時の高級食器である灰釉・緑釉陶器や、文字を扱える人がいたことを示す硯が発見されたことから、多賀城で働く役人などが往来していた可能性があります。そして、西沢遺跡で行われていた鍛冶は、多賀城の維持に欠かせない生産活動の一つであることから、多賀城との関連が考えられています。

協力：多賀城市教育委員会